

調査のご相談は・・・

特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター

まちづくり事業部

〒669-1531

三田市天神 1-5-33 三田市商工会館 211 号室

TEL 079-553-2521

FAX 079-553-2522

e-mail info@batotsnagari.net

URL http://www.batotsunagari.net

※当法人は三田市の委託事業として、市民活動の相談窓口も開設しています。

三田市まちづくり協働センター 市民活動推進プラザ

〒669-1528 三田市駅前町 2-1 三田駅前一番館（キッピーモール）6 階

Tel 079-559-5168 FAX 079-559-5169

（休所日：年末年始、月曜日、運営時間：10 時～18 時まで）

私たちは、関西学院大学総合政策区部の教員や学生と、
三田市民が一緒になって立ち上げた、市民活動の支援組
織（中間支援組織）です。

社会調査の知識を有するスタッフも複数いますので、お
気軽にお問い合わせください！



社会調査って何？

発行日 平成23年3月

制作 特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター

兵庫県三田市学園2-1

関西学院大学総合政策学部 長谷川研究室内

本冊子は、兵庫県社会福祉協議会「ひょうごボランティア基金チャレンジ事業助成事業」の「市民の社会調査を支援する体制づくり事業」として発行しました。



説得力のある主張をするために

～調査を「読む」眼を鍛える～



特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター

1. 「事実」を持って語る

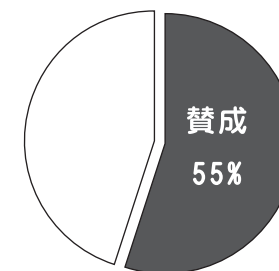
皆さんが他の人に何かを伝えたいとき、あるいは何かを主張したいとき、「たぶんそうだろう」、「私はおそらくこうだと思う」といった憶測や推測だけでは、うまく伝わりません。皆さんの感じ方やとらえ方以外にも、さまざまな解釈があり得るからです。説得力のある主張をするためには、誰でも「そうだな」と思えるような何らかの「裏づけ」が必要です。

アンケート調査であれインタビュー調査であれ、調査によって得られるデータは、こうした「裏づけ」を与えてくれるはずです。

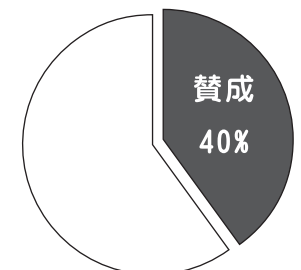
ウォーミングアップ

「ある市で河川改修に対する賛否をたずねたところ、賛成が55%でした。なお、前年の調査（質問文は同じですが調査対象者が異なっています）では賛成は40%でした。」

あなたは、この結果をどのように解釈しますか。その解釈に説得力を持たせるためには、他にどのようなことを知る必要がありますか。



今年



去年



55%という数字は確かにひとつの「事実」ではあります。しかし、果たしてこの数字はどこからどのようにして出てきたのでしょうか。

この数字にはどのような意味があるのでしょうか。

練習問題を考えながら、こうした問いにきちんと答えることができるようになること。それがこの冊子の目的です。

2. 調査結果が意味するもの

練習問題 1

以下の調査結果をどのように解釈したらよいだろうか。また、調査結果をよりよく理解するためにはどのような情報が必要になるだろうか。

- ① 電話帳への掲載拒否が43% 都会では過半数に
(2000.10.18 朝日新聞)

必要になると思う情報を、以下に思いっくだけ列挙して下さい。

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____

2. 調査結果が意味するもの

- ② ネットの利用：経験者が7割強 昨年比30ポイント増 郵政省
(2000.10.19 毎日新聞)

必要になると思う情報を、以下に思いっくだけ列挙して下さい。

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____



考えるためのヒント

どういう人を対象に誰がどのように調査したのだろうか？



- 調査主体 郵政省(当時)
- 調査対象者 電話・インターネット等の電気通信サービスに関心がある満20歳以上の方。
全国で1000人程度。アンケート調査とモニター会議への出席が条件
(謝礼あり)。
- 回収率 94.9%

練習問題 2



以下に示したものは、湾岸瀬院相互に実施された世論調査の質問文と集計結果の一部です。当時の政府はこの結果を「予想以上に良い結果」だと評価したようです。

まず、この質問に対して、あなたならどのように回答するかを考えてみましょう。次に、実際の集計結果をもとに、なぜこのような結果が得られたのか考えてみましょう。

- 質問1 ペルシャ湾にイラクがばら撒いた嫌いが1,000個近くも放置されていることを知っていますか。
- 質問2 ドイツが掃海艇を派遣したことを知っていますか。
- 質問3 日本は金だけで人的貢献をしなかったという反日感情が高まっているのを知っていますか。
- 質問4 日本の掃海艇派遣は 
- ①当然だ ②やむを得ない ③反対だ(29%) ④わからない

(1991.5.9 朝日新聞)



このような結果が出た理由を、以下に思いつくだけ列挙して下さい。

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____



- 考えるためのヒント
- (1)この順番で質問することにどのような意味があるだろうか。
- (2)質問4の選択肢はこれでよいだろうか。

実際の集計結果は、次のとおりでした。

①当然だ(25%) ②やむを得ない(37%) ③反対だ(29%) ④わからない(8%)

この調査結果をもとに、「当然だ」と「やむを得ない」を合わせて62%の国民が自衛隊の海外派遣を支持していると評価したようです。果たしてそれは妥当な評価なのでしょうか。

練習問題 3

ダイエット食品の効用に疑問を持ったマリエ・アンゾ博士は、ランダムに選んだ男女1000人ずつ、計2000人に1日に食べるダイエット品の回数と量を尋ねてみた。
その際、各自の肥満度 $((\text{身長}-\text{体重})\div 110)$ も測定してみた。その結果次のことが判明した。

- (a) ダイエット食品を食べる回数が多ければ多いほど、肥満度が高い。
 - (b) ダイエット食品を食べる量が多ければ多いほど、肥満度が高い。
- (谷岡(2000)128ページ(org.朝日新聞1998.9.7))

この調査結果をもとに、「ダイエット食品は減量に効果なし?」という見出しで報道されました。では、「効果なし」という評価は果たして妥当な評価でしょうか。

この調査で気付いたことを、以下に思いっただけ列挙して下さい。

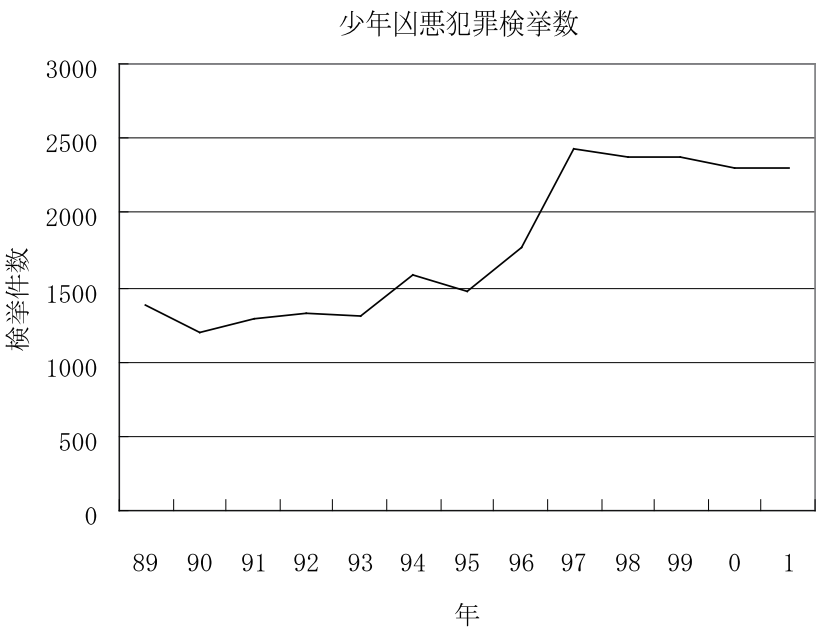
- 1. _____
- 2. _____
- 3. _____
- 4. _____
- 5. _____



考えるためのヒント
食べる回数や量と肥満度との関係は、どちらが原因で、どちらが結果なのだろうか。

練習問題 4

以下に示した図は、少年凶悪犯罪検挙率の推移を見たものです。こうした図をもとに、日本の少年(14歳から19歳)がキレやすくなっている、などということが盛んに言われています。本当に少年たちはキレやすくなっていると言えるのでしょうか。



(パオロ・マッツァリーノ(2004):18-37を参照)

この調査で気付いたことを、以下に思いっただけ列挙して下さい。

1. _____

2. _____

3. _____

4. _____

5. _____

！
考えるためのヒント
確かに95年以降に検挙数が急増したように見えますが、この図に示されていない部分(過去)はどうだったのだろうか。

3. 調査結果を「見る眼」を鍛える

ここでは、練習問題のひとつの解答を示します。

もちろん、ここに書かれていること以外にも、さまざまな視点があろうかと思います。皆さん自身独自の視点も含めて考えてみるようにしてください。

練習問題1



まず回収率の高さに注目しましょう。通常の調査では、回収率はせいぜい60%程度です。もちろん回収率の高い調査もありますが、それでもほぼ100%という回収率はまずありません。

この調査で回収率が高かったのは、電話・インターネット等の電気通信サービスに関心のあるモニターとして募集した上で、謝礼を払って調査に回答をしてもらっているためです。通信関心の高い人は、恐らくプライバシーに関しても敏感でしょうから、電話帳への掲載を望まない人が多いのも当然でしょう。

また、インターネット等、当時としてまだ新しいコミュニケーション手段を積極的に取り入れる可能性も高いと思われます。ネット利用経験者が多いのも肯けます。



では、この調査結果は、果たしてどれだけ一般的な傾向を映し出しているのでしょうか。確か、全国から(実際には、全国をいくつかのブロックに分けてそれぞれから)モニターを募っているので、その回答を集計したものは日本全体の傾向を表わしているようにも見えます。

少し簡単な計算をして見ましょう。人口を1億人として、1年間でネット利用者が30ポイント増えれば、この間に3000万人の人がネットを利用するようになったことになります。皆さんは、じられますか？



どんな調査でも、対象が偏っていれば偏った結果しか得られないということ、つまり、その結果調査対象者の範囲を超えて一般にも当てはまるわけではないということです。



3. 調査結果を「見る眼」を鍛える

練習問題2

質問文の順番に注目しましょう。質問1で、バルシャ湾に機雷がたくさん放置されていてとても危険だという事実が知られます。質問2では、そのような危険なところでドイツが頑張っていることが分かります。質問3では、それにもかかわらず日本は金だけしか出しておらず国際的に非難されているようです。こうした質問をした上で(実際は、調査対象者に「知識」を注入しているわけですが)、最後の質問4で掃海艇派遣の賛否をたずねています。

このような質問のされ方をしたら、「当然だ」あるいは「やむを得ない」と考える人も少なくないでしょう。このようにして回答が誘導されていくことを、質問文の順番によるキャリーオーバー(持ち運び)効果と言います。

次に、質問4の選択肢に注目しましょう。選択肢は、「当然だ」、「やむを得ない」、「反対だ」、「わからない」の4つです。掃海艇派遣に肯定的な選択肢が2つあるのに対して、否定的な選択肢は1つしかありません。最終的に「当然だ」と「やむを得ない」を掃海艇派遣支持とするのであれば、支持率が高くなるのはむしろ当然のことかもしれません。

また、「やむを得ない」といった、回答者自身の考え方や判断がはっきりしないような選択肢(よくあるのは「どちらともいえない」という選択肢)があると、そこに回答が集中する傾向があります。これらを考えに入れると、過半数の国民が掃海艇派遣を支持しているという主張は果たして現実をきちんと反映したものになっているのか疑ってみたいくなります。

練習問題 3

この問題では、まず相関関係と因果関係の違いについて理解しておく必要があります。相関関係とは、「ダイエット食品の摂取量と肥満度とは関連がある」といった、2つの事柄の間に何らかの関係があるということを示すものです。関連でしかないのですから、どちらが原因でどちらが結果かはわかりません。他方、因果関係とは、原因と結果がはっきりしている関係を言います。この問題の場合、ダイエット食品の摂取量が多いほど肥満度が高いということですから、前者が原因で後者がその結果だと解釈していることになります。それゆえ、「ダイエット食品は減量に効果なし」という結論になるわけです。

本当にそうでしょうか？これは少し考えてみれば分かります。ダイエット食品を摂取する人はどのような人なのでしょうか。やせた人がダイエット食品を食べることはよくあることなのでしょうか。事実はおそらく、肥満度の高い人がやせようと思ってダイエット食品を食べているのであって、その逆ではないということです。したがって、ダイエット食品をたくさん食べている人には肥満度の高い人が多く、ほとんど食べていない人は肥満度が低いということになりますから、これらの間には相関関係は確かにあります。しかしそれは、摂取量が原因で肥満度が結果という因果関係ではありません。因果の向きはまったく逆で、肥満度が原因で摂取量がその結果です。こう考えれば、このような結果が得られたことはむしろ当たり前のことで、なぜこんなことが新聞に掲載されたのか本当に不思議です。

応用問題

ある調査で、ボランティア参加率が高いほど犯罪率が低いという結果が得られました。これをもとに、「人と人との関係性が豊かな地域ほど安心である」という主張がなされています。本当にそうでしょうか？

この調査で気付いたことを、以下に思いっただけ列挙して下さい。

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____

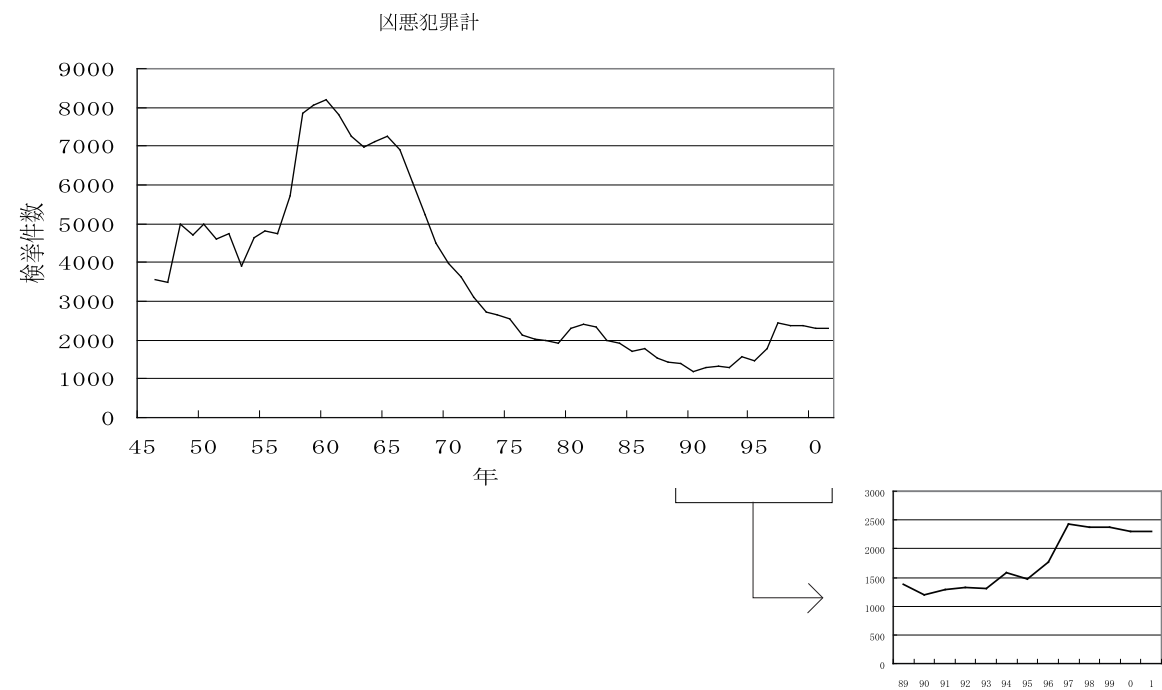


ひとつのヒント
高齢者がたくさんいるところとそうでないところに分けて考えるとどうなるでしょうか

練習問題 4

このグラフを見る限りは、確かに少年の凶悪犯罪検挙数が近年増加しているように見えます。実際、このデータをもとに、ゲーム脳だとか現実の世界と仮想の世界との境界があいまいになっている等、少年を取り巻く環境の問題性が大いに議論されました。

さて、もともとの資料は警察庁の犯罪統計ですから、グラフにある89年以前のデータもあるはずです。もし、89年以前において少年の凶悪犯罪検挙数が低いレベルで推移しているのであれば、少年が凶暴化していると言えるのかもしれません。実際に確かめてみましょう。



練習問題で示したグラフは、このグラフの右端の部分だけを切り取ったものです。その左側が練習問題では示されていない過去のデータです。これを見ると、1960年前後には7000～8000件の凶悪犯罪が検挙されていることが分かります。2000年前後ではだいたい2000件程度ですから、昔の少年は大変「凶暴」だったようですが、今の少年はそれに比べればはるかにおとなしいという印象です。つまり、少年が近年とりたてて「凶暴化」しているわけではないということです。

このように、切り取られたデータだけで議論すると意味のない議論をしてしまう可能性があるのです。一度、データ全体を見渡してみることが大切です。

まとめ

これまで練習問題を通じて、調査結果を見る際にどのようなことに注意しなければならないかを考えてきました。データがどのようにして収集されたか、そのデータはどのように集計され、どのように解釈されているか、またその解釈は妥当か。こうした点をまず押えておく必要があります。具体的には、少なくとも次にあげることを確認しておきましょう。

- I. データ収集のプロセス
 - (1) 誰が(調査主体)
 - (2) 誰を(調査対象者)
 - (3) どのような方法で選び出し(対象者の抽出:サンプリング)
 - (4) どのような目的で(調査目的)
 - (5) どのようなことを(調査テーマ)
 - (6) どのようにして尋ねたか(質問文とその配列)
- II. 分析と結果の表現
 - (1) 解釈の妥当性(相関関係と因果関係)
 - (2) 提示された結果の範囲(都合の悪い部分の切捨て)
 - (3) 誤った理解(誤解)をもたらす可能性
(データの示し方、グラフの作り方)

新聞に目を通すと、内閣支持率をはじめとしてさまざまな意識調査等、たくさんの調査結果が報道されていることがわかります。ある程度の規模の調査であれば、質問文と集計結果が掲載されています。それとともに、その調査がどのように行われたのかについても書いてあるはずですよ。ぜひ一度確かめてみてください。

他の人や機関が行った調査の結果をきちんと判断する力がつけば、自分で調査する際にもしっかりとしたものを作ることができます。私たちが知りたいのは、「ゆがめられた現実」や「脚色された現実」ではなく、「事実」そのもの、ゆがめられていない実際の姿です。この冊子で紹介したものは、こうした「事実」を捉えるための視点の一部に過ぎません。この機会に、「社会調査」というタイトルのある書籍をぜひ一冊手元に置いて、必要な時に参照していただきたいと思います。

参考文献

- 大谷信介他編(2005)『社会調査へのアプローチ(第2版)』ミネルヴァ書房。
 谷岡一郎(2000)『「社会調査」のウソ〜リサーチリテラシーのすすめ』文春
 新書110。
 パオロ・マッツァリーノ(2004)『反社会学講座』イースト・プレス。



社会調査へのアプローチ



「社会調査」のウソ



反社会学講座